のんちゃんのお出かけ記

街歩きの新たな楽しみ！「送水口（そうすいこう）」の魅力発見

館長の村上善一さん

★★★
送水口博物館のオリジナルグッズをプレゼント！
（2頁参照）

「送水口」とは、火災が起きた際、消防車からホースをつないで建物内の消火設備へ水を送るための重要な装置で、7階以上の建物や大きな地下街などに設置が義務付けられています。ビルなどの入り口付近で目にするものの、その役割や歴史まで知っている方は、ほとんどいないのではないでしょうか。

送水口博物館の館長・**村上善一**さんは、送水口や消火栓を製造する㈱村上製作所の三代目社長。全国の古い建物が取り壊されると聞けば、自ら現地に足を運んで救出作業を行い、貴重な送水口を収集しています。そのきっかけは、街歩きをしながら送水口を愛でていた「送水口ファン」の方々と出会い、その奥深さに気づいたからでした。

送水口が日本に登場したのは、大正12年の関東大震災の後。それまでの外からの放水方法では高い建物の消火が困難だったため、アメリカから「STANDPIPE（スタンドパイプ）」や「SIAMESE CONNECTION（サイアミーズコネクション）」などと呼ばれる装置が輸入され、消防ポンプ車から各階に消火用水を送ることができるようになりました。

昭和10年ごろから日本国内でも製造されるようになりますが、しばらくは英語やカタカナで表記されており、「送水口」という漢字表記が消防法で正式に定められたのは昭和36年。つまり、送水口の表記の仕方で歴史がわかるのも魅力の一つです。

現代の無機質なものとは異なり、昭和初期の洋風建築に合わせてデザインされた送水口は、装飾的でどこかハイカラな雰囲気。今でも、城下町や港町など、古い建物が残る街並みを歩けば、味わい深い〝オールド送水口〟に出会えることも。

とても気さくな村上館長は、絵もプロ級の腕前で、自作の紙芝居を通して子どもたちに送水口の役割や重要性を伝える活動も行っています。紙芝居を観た小学生から届くお礼の手紙をとても大切にされており、「何より嬉しい」と話してくださいました。また、送水口ファンの方々とも定期的に集まり、交流を楽しんでいます。

送水口を知ることで、街歩きの楽しさが倍増すること間違いなし！ぜひ、皆さんも探してみてくださいね。

■ **送水口博物館**〈〒105-0004 東京都港区新橋2-11-1 村上建物ビル5階（エレベーターはありません）〉
【アクセス】JR山手線・東京メトロ　新橋駅より徒歩5分／都営三田線　内幸町より徒歩2分
【開館日】毎週木曜日／隔週土曜日　※詳しい開館予定はHP（http://www.zentech.co.jp/museum/）参照。
【開館時間】14時～19時
【入場料】無料